

平成 29 年度 第 1 回能勢町子ども・子育て会議
～議事録～

日 時：平成 29 年 8 月 2 日(水) 10:00～12:00

会 場：能勢町保健福祉センター 2 階 多目的室

出席者：小島会長・樺山副会長・宇佐美委員・八木委員・上佐古委員・三浦委員・中谷委員・市村委員・萱野委員・後藤委員・木村委員

【計 11 名】

傍聴者： 2 名

関係機関：大阪府池田子ども家庭センター 田村総括主査

事務局：健康福祉部 瀬川部長・花崎福祉課長・西村保育所長

大植福祉係長・倉中福祉係主事・藤原社会福祉士、
古嶋家庭教育支援専門員

教育委員会 寺内教育次長、辻学校指導課長、古畑生涯教育課長

次 第：1. 開会

司会：花崎課長

2. 議事

議長：小島会長

(1) 能勢町子ども・子育て支援事業計画 平成 29 年度の事業目標について

(2) 子どもの生活実態調査について

(3) その他

3. 閉会

司会	そうしましたら、あらためまして委員の皆さんおはようございます。朝早くからお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。年末の何かとお忙しい時期にかかわりませず、繰り合わせご出席いただきまして、誠にありがとうございます。定刻 10 時となりましたので、只今から第 2 回能勢町子ども・子育て会議をはじめさせていただきます。 あらかじめ 4 本日もお手元の参考資料①のとおり、寺裏委員、宇佐美委員、出水委員、上佐古委員そして、関係機関の田村さんが本日欠席のご連絡を頂戴しておりますので、ご報告を申し上げます。
司会	それでは、開会にあたりまして、小島会長よりご挨拶を頂戴して進めてまいりたいと思いますので、よろしく申し上げます。
会長	あらためまして委員の皆様おはようございます。数日間、ちょっと快くと思っておりましたが、また、今朝は霜が降りましてとても寒うございます。そして、事務局の方よりお話がありましたように、本年余すところ今日を含めて 6 日というたいへん皆様方にとりましては気忙しい本日であろうかと思っております。本日は第 2 回の子ども・子育て会議ということでたくさんの皆様方にご出席をいただいておりますこと厚くお礼申し上げます。さて、子どもたちはとっても楽しい冬休みに入りましたし、冬休みやお正月で楽しみはいっぱいあふれているこれがすべての子どもにあればいいんですが、ここ数日前からはほんとにわたしたちの近い場

	<p>所、箕面市でほんと悲しい出来事がそして昨日の講演会で聞きま したところ、39歳までは若者というのですが、30何年間ほんと両親の ところで軟禁状態にされていたりとか、私たちの見えない部分で、楽し いはずの子どもたちがいろんな目にあっています。あるとき、今日ラジ オに耳を傾けていると、このクリスマスは子どもも楽しいと思っている ようですけれども、特に子育て世代の方、あるいはシングルマザーの方 等にとっては、こんなクリスマスなかったらよいのになあ、なんでやろ うと思っている方が40数パーセント、でも子どもには何の責任もあり ません。子どもは楽しくて仕方ないはずです。そんなことを考えると、 今私は皆さんと一緒に考えているこの会議こそ、ほんと子どもにとっ ては大事な会議だし、すべての子どもに幸せ、そしてすべての子どもに温 かさ、そしてその先頭を能勢町がきれたら、能勢町の子どもって幸せや なあ、子どもたちは能勢町に生まれてきてよかったな、そんな思いをも っているかと思いますが、子どもは正直ですから、大人の背中をみて育 ちます。だから大人がこうありたいなと願えば子どもも答えてくれるで しょう。今日の会議はいろいろありますけれども、事務局から今取り組 んでいただいていること等々、お話を伺いまして一人でも多くの子ども が能勢町に生まれ、能勢町で育ち、よかったなあ、お母さん方も楽しく 子育てができたなあ、そんな地域をめざしていく会議を進めてまいりた いと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
<p>司会</p>	<p>ありがとうございました。それでは会議に入ります前に、本日の会議 につきまして、お手元にお配りをしております次第に基づきまして、そ れぞれ案件をご用意しております。概ね正午までの間に活発なご意見、 意見交換をさせていただけたらと思います。よろしくお願ひいたします。 それでは会議に入ります前に、まず資料の確認をさせていただきたいと 思います。お手元に本日資料1、資料2ということでお配りをさせてい ただいております。資料1につきましてはA4ホッチキス止めの資料、そ れにそれぞれ参考資料としてチラシ等を添付させていただいております けれども、また会議進行中に不足等がございましたらお申し出いただき ましたら、対応させていただきます。それと資料2これもA4ホッチキス 止めでございますけれども、コミュニティ・スクール関係の資料という ことですが、以上で本日進めていきたいと思ひますのでよろしく お願ひします。それではこれ以後の会議の進行につきましては、本会議 の設置条例第6条の規定に基づきまして、会長にお願ひしたいと思ひま す。どうぞよろしくお願ひいたします。</p>

	<p>○会長 それでは、案件1 能勢町子ども・子育て支援事業計画につきまして、事務局より説明を頂戴したいと思います。</p> <p>○事務局（福祉課） そうしましたら、案件1 能勢町子ども・子育て支援事業計画の進捗状況につきまして、資料1 の子どもが創る明るい未来推進事業の取り組み状況をもとに説明をさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。座らせていただいて説明をさせていただきます。29年度の実施状況というところで、先の第1回の会議におきまして、子ども・子育て支援事業計画の進捗の状況について前回ご説明をさせていただき、今年度についてはこの子どもが創る明るい未来推進事業に取り組んでまいりますということで、ご説明をさせていただきました。この12月までの取り組みの状況をご報告をさせていただきたいと思います。この事業につきましては28年度に実施いたしました子どもの生活に関する実態調査結果を踏まえつつ、次の3つの視点切れ目なくつなぐ、教育と福祉の連携、地域とのつながりという3つの視点をもって取り組みをするということで、3か年計画ということで平成29年度を初年度として29年度、30年度、31年度、3か年で取り組んでいこうということで展開をしていくというものでございます。この事業を進めるにあたりまして、保健福祉センターにおきましては、29年4月1日に子どもの未来応援センターを設置させていただきました。この子どもの未来応援センターにつきましては、平成29年4月1日の母子保健法及び児童福祉法の改正も踏まえ位置づけとして子育て世帯包括支援センターと児童家庭等に対する拠点という位置づけをさせていた</p>
司会	<p>皆さますべてでございますでしょうか。また、落丁等含めてお気づきの点がございましたら、事務局の方までお知らせをいただきましたらと思いますので、よろしく願いします。</p> <p>それでは、次第をめぐっていただきまして、資料1 をご覧いただけますでしょうか。第1回目の会議でございます。事務局を含めまして、先ほど申し上げましたが、委員のなかでも交代されておられる方々もいらっしゃると思いますので、各自自己紹介をお願いしたいと思っています。</p> <p>なお、本日の会議に際しまして、豊能警察署生活安全課課長の寺裏さん、町PTAの出水さん、能勢高校の斎藤先生、この方々にはあらかじめ欠席のご連絡を頂戴しておりますので、ご報告を申し上げておきたいと思ひます。</p> <p>それでは大変恐縮ではありますが、資料1 の名簿順に各自自己紹介をよろしく願いいたします。</p> <p>(会長から順次あいさつ・・・)</p>
司会	<p>それでは案件に移らせていただきたいと思います。正副会長を代表いたしまして、小島会長よりご挨拶を頂戴したいと思いますので、どうぞよろしく願いします。</p>
会長	<p>失礼いたします。ほんとに毎日暑うございます。この言葉しか出てこない感じがいたします。本日は朝から皆さん方ご多用の中、この会に多数ご参会いただきましてありがとうございます。今、子どもたちの世界は、</p>

夏休みに入っている。今まで学校という社会のなかで、1日の半分を過ごしていましたが、今は24時間家庭、あるいはその数時間を地域で過ごしております。きっと8月の末の2学期の始業式にはいっぱいいっぱいいたくさんのご両親から受けた愛やそして地域からいただいたやさしさなどをいっぱいいっぱい学んだことをもって9月には新学期を迎えるんじゃないかなという期待の反面、テレビやあるいは新聞をみてみると、今だまだ、子供の痛ましい事件がたくさん続いております。でもたぶん能勢の子どもはとってもしばらしいご両親、地域のなかで育てるので安心だなあとおもいつつ、やっぱり能勢にも家庭の事情があって、学校からは今生活を離れてはいますけれども、一人であるいは子どもたちだけで生活している、ほんとに僕の居場所、私のおるところどこやろうと思っている子もいるんじゃないかなと思うと、ふとなんか寂しいような気がいたします。

しかし、このあと、いろんなチラシとかがはいっているものをみておりましたり、あるいは町報とかをみておりましたら、いろんな意味で子どもを支えていただいている、そういう団体なり、そんな支援者が増えていくことも確かだと思います。今日は夏休みの一日になりますけれども、皆さんとともに、ほんとに子育てのママたちが能勢はよかったな、そして子どもたちも能勢町で生まれて、能勢町のこんなところで育つてよかったなとそんな声がやがて何年かの後に訪れます。そして今この子どもたちが、きっと私たちを支えてくれる時代を担う子どもたちです。今日ほんとにわずかな時間ですが、能勢町の子どもの実態をご説明いただきながら、いったい私たちに何ができるのか、どうしたらいいのか、ということをおみんなで考える会議になればとてもうれしいです。どうぞよろしくお願いいたします。

司会	ありがとうございました。これより会議に入ります。進行につきましては資料2の設置条例第6条第1項でございます規定のとおり会長にお願いしたいと思っております。これより先よろしくお願いいたします。
会長	失礼いたします。それでは案件1能勢町子ども子育て支援事業計画平成29年度につきまして事務局よりご説明をお願いしたいと思います。
事務局(福祉課)	(資料③幼児期の教育・保育の実施状況と子ども・子育て支援事業の供給体制、資料④平成29年度子ども・子育て支援事業計画について説明)
会長	ただ今、事務局から説明を受けたところではありますが、何かご質問、ご意見等ございましたらお受けしたいと思います。
事務局(福祉課)	すみません、もしよろしければ、資料④の方も説明させていただいてから一括して質問をいただくということはいかがでしょうか。
会長	資料④についても同時に説明をくださるということですので、先ほどのご意見もらえる方、後でもう一度ご意見をお伺いいたしますので、しばしご説明の方お願いいたします。
事務局	(資料④について説明)
会長	資料③、④について事務局から説明がございました。ただいまより皆

	さんからご質問をお受けしたいと思います。お願いします。
市村委員	今年度新しく6月から始まっている子育て支援チームの専門員、支援員のかたが各家庭を回られて、どういう感じだったかお聞かせ願いたいと思います。
会長	ただ今の質問ですけれども、訪問をしていただいたときの感じですね、お受けくださったときの感じ、何名の方でたくさんの数を回ってくださったかと思うのですが、総括の話し合いをされたときにどんな質問があってどんなような状況でしたことも含めて、ということでございますね。よろしく願いいたします。
事務局（福祉課）	すみません。そうしましたら、後ほどの説明させていただく資料にもありますが、資料7の7ページをお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。こちらにこの6月に第1回目ということで、家庭教育支援員さんが各家庭をまわっていただきました。対象としては就学前児童の5歳児さん、いわゆる年長さんのご家庭と小学校1年生から3年生のご家庭を回っていただきました。対象の児童数は197人ですが兄弟の関係等で、配付させてもらった家庭は159家庭ということになっています。配付期間については、支援さん8名、実際は7名の方で回っていただきました。それぞれ都合の良い時間帯に回っていただきました。期間は6月8日から6月22日の間で回っていただきました。回った時間はできる限り保護者の方に出会えるような時間帯を工夫して設定しまわっていただきました。配付状況については直接保護者に情報を渡せた家庭については139家庭、子どもが留守番をしていたので子どもに情報誌を渡したのは4家庭、インターフォン越しにポストインは5家庭、どうしてもお会いできず留守家庭が11家庭、基本的に各家庭に訪問する際、第1回目ですので支援員さんとして情報誌をお持ちしましたという形で訪問させていただきました。第1回の取り組みということで、各家庭とつながっていったらということを目論みということで訪問しました。ですから、個別具体的にこういう困りごとがあるという相談事は、1回目の訪問ということもあってなかったと思いますが、それでもつながり、会話ができたということがありましたので、これまた二学期情報誌を作成して、また訪問の方を10月くらいを目途にできればと考えているのでよろしく願いいたします。
会長	1回目の訪問でございまして、いろんなお声を聞くには至らなかったような、初めてであるということで、顔も初めての方もあって、回っていただきました戸数含めて現状の話がございましたが、これでもよろしいでしょうか。
市村委員	はい。
会長	それではありがとうございます。ございませんでしょうか。
会長	そしたら後からでできましたときに最後にご質問を伺うといたしまして、今のところないようですので、案件2子どもの生活実態調査についてということで昨年度の実態調査を踏まえて能勢町の子どもたちの状況がどうであったかという状況を踏まえまして、事務局から説明をいただきたいと思っています。

そうしましたら、子どもの生活実態調査につきまして配付資料5、資料6、資料7。本日追加で提出させていただきました実態調査のグラフです。4つの資料を中心に説明を考えております。

まず、資料5は能勢町子どもの生活実態調査抜粋ということで、こちらは大阪府立大学さんをお願いして取りまとめいただいたもので、これは製本させていただいているのですが、全体であれば552ページにわたるので、本会議に提示するのはボリュームが多すぎるということで、最後の大阪府立大学の山野教授が取りまとめていただいた部分を抜粋させていただいたものになっています。実態調査報告書自体は町ホームページに掲載しているので住民の皆さん、また興味のある方は見ていただける状態になっていますので、申し訳ございませんがご確認をいただければと思います。また、この実態調査につきましては、6月6日に、子どもの生活実態調査を踏まえた能勢町の状況ということで大阪府立大学の山野教授をお招きしてこの場所で報告会をさせていただいて、この子ども・子育て会議の委員の皆さまにおかれましてもご参加いただき、山野先生から直接、能勢町の状況について報告をお受けいただいたこともありますので、若干今回私が説明する内容が重複するところが出てくるかと思われませんが、山野先生がまとめていただいた最後のまとめについてご説明させていただきたいと思います。

そうしましたら、資料5ですけれども、1ページのところで課題と方向性についてまとめられています。本調査は小学校や中学校のご協力をえて、回収率が非常に高いものとなっているのが一つの特徴です。児童生徒については9割を超える回収率、保護者についても8割近い回収率でした。これは大阪府内で共同実施した13市町（能勢町も含めて）と大阪府が独自に調査した回収率は、おおよそ6割程度となっていたので、府内に比べるとかなり高い回収率となっておるところです。で、ここの3から4行目に記載されているが、大阪府内の自治体の結果の多くは本町の調査結果と同様の傾向をしめしています。基本的には府内の市町村が抱える課題と能勢町が抱える課題は同じような傾向があるというところで、まず、それを前提に報告書をまとめていただいているというところ です。

そうしましたら、資料5の2ページをお願いいたします。これ以後につきましては特に、能勢町の特徴が出ていたりとか、留意する点について私の方から説明をさせていただきたいと思っています。まず、この調査では貧困度をどのようにみていくのかということで、等価可処分所得の中央値以上というところと中央値の60パーセント以上から中央値未満、中央値の50パーセント以上から60パーセント未満、中央値の50パーセント未満、4つの区分で分析を行っていただいています。貧困線は中央値の50パーセント未満というところを貧困のラインとして一定の分析をいただいているところ です。

それと、この調査の分析にあたっては、相対的貧困の考え方はその地域で標準的に行われていることが欠けている状態をさすことから、国の基準に当てはまめることなく、その自治体毎の物差しにより貧困度を算

出させていただいております。

このようなことから、府内の市町村を比較しても、中央値のラインが自治体毎の所得によって金額が違うことになり、能勢町では等価可分所得が107万未満であれば貧困度1で示していますが、等価可分所得が高い自治体であれば能勢町よりも高いところが困窮度1になるので、そのようなことで理解いただけたらと思います。

〈2ページ下段 経済的資本、社会的資本、人的資本において能勢町の調査結果を述べていただいている旨の説明。〉

〈3ページ 経済的資本の欠如について。3行目から（朗読と説明）。下から7行目の能勢町の特徴について（朗読と説明）。〉

〈4ページ 社会保障給付の状況について（朗読と説明。）〉

〈5ページ中段部分 困窮度別の学習時間と学習理解度との関係について（朗読と説明）。〉

〈追加資料25ページ グラフ参照。〉

〈6ページの下段（まとめと提案）～7ページについて、傾向としては大阪府内の自治体と同じ傾向にあり、加えて、経済的に能勢町において厳しい状況にあったという記載がされています。そういうなかで、既存の制度の受給率を高める工夫が必要であること、また、若年で出産された方に対する経済的支援策や若年の保護者を対象とした学びなおし、就労支援、健康支援等一体的に実施することが求められているのではないかと記載をいただいています。また、子どもの環境では放課後の過ごし方に差がみられ、読書や多様な体験の差となり、格差が格差を生んでいることが明らかとなっています。そして、重要なのはすべての子どもたちに届けるサービスとターゲットをしっかりと分けて届けるサービスを検討すべきであり、そのためには仕組みが必要であり、サービスが有機的につながっていくことが重要であるという記載をいただいています。

また、困窮度によって生活習慣のケアを必要とする子どもがいることが確認もされています。また、学校内だけでなく学校外での塾や習い事、文化活動にかかわる様々な社会活動を体験する格差を縮小する施策が求められているというコメントをいただいています。これらの様々な機会を提供する居場所づくりの必要性を根拠づけるデータが得られたと記載をいただいているところです。

7ページの中段では、基盤となる経済的支援、家庭教育支援、社会経験と学習支援、これらの3本が必要であるというところで、子ども食堂や学習支援であってもその成果を生み出しにくい、これら3本に関する施策をつなぐ仕組みが必須であるということで、単発でなく有機的につながるような施策の展開が必要であるというまとめをいただいているところです。7ページの下段では、生活基盤づくり、8ページでは家庭基盤づくり、制度やサービスを確実に届けるための仕組みづくり、文化活動、読書、年代の違う人との交流など様々な要素を含んだ居場所の創設、支援者共通の指標づくりという5つの項目で取組を進めていくべきとの提案をいただいているところですのでご一読願います。そうしまし

	<p>たら、この実態調査報告書の府立大学の山野教授のとりまとめをいただいたところにつきまして、能勢町の特徴がでていところを中心に報告をさせていただいたところでございます。</p>
会長	<p>ただいまの子どもの生活に関わる実態調査の報告について、能勢町の特徴でありますとか、今後につなげていきたいことも含めまして、今掻い摘んでご説明をいただきました。ここまでの細かい文字のなかにたくさん大事な部分もありましたし、あるいは府とほぼ変わってないという部分もありました。ただし、お話のなかには個々個々が点でつながるのではなく、線、面でつなげていかないとここに出てきた実態調査のなかで是非とも改めていかなければならない部分については点ではだめで、線と面でつなげていってこそ何か成果が出てくるというお話もありました。ここで皆様方の実態調査の報告に関わりまして、ご質問ありましたらお伺いしたいと思います。</p>
後藤委員	<p>107万円未満が困窮度1とおっしゃったんですが107万円未満の生活ってどんな生活なのか。大阪府では255万円が中央値で能勢町では214万が中央値で、この何十万の差はどんな風に影響するのは想像できなくて。107万円未満の困窮値はほんとに正しいのでしょうか。</p>
事務局(福祉課)	<p>今回、4区分で分析いただいているのですが、これについては、絶対的な貧困での区分ではなく、相対的な貧困というところでの区分ですので、その大阪府の中央値と能勢町の中央値との差が41万円であると、困窮度1の差ですが、生活ができるかどうかというところは、いわゆるデータの貧困ではございませんので、最低限の生活の保障というのは日本国ではすべての国民が保障をされているということが前提となっていますので、生活ができるかできないかということになれば、生活ができるというところの認識をベースでまずもっていただいて、そのなかで相対的な貧困をみるときに、その地域で標準的に行われていることがかけている状態を、みていこうというところでございますので、大阪府の平均と能勢町の平均が違うというところはあるんですけども、そのなかで、困窮度1の方は何ができていないのか。普段の生活のなかでその児童が、日常体験、経験するべきことがどれだけ欠けているのかを分析していただいているところです。生活上、食べる等を主眼においているものではないので、ご理解願います。</p>
会長	<p>細かい調査もできていない状況ですので、これを私たちが鵜呑みにしてほんとにこの収入で生活ができているのかというのは??だと思います。たくさん??です。ということです。</p>
後藤委員	<p>数字はとってもよくわかる。中学校の就学援助率は15パーセント超えてイメージわかるんですけど。就学援助もらっていない子どもでも厳しい家庭がみえる、だからもっと厳しい状態がみえるような気がします。</p>
会長	<p>先ほどのなかに、やはり親御さんたちにそういうサービスがあるということもやはりお分かりになっていない方もあるでしょうし、苦しい中で切り詰めて上手に生活されている方もあるでしょうし、ほんとに様々だと思いますが、ほんとに学校生活のなかで、子どもをみておられる校</p>

	長先生方にとりましては、なんでということがたくさんあるかと思えます。子どもは割合正直な姿が見えてきますね。
会長	ほかにございませんか。
会長	そしたら実態調査の報告につきましては、これでご説明をいただいて、なるほどというふうに思っただけで、今後につなげていただいて、次の資料⑥の能勢町子どもの生活実態調査を踏まえた説明をいただくなかでも、少しでてくるのではないかと思いますので、説明をよろしくお願ひしたいと思ひます。
事務局(福祉課)	<p>資料6をお願ひしたいと思ひます。こちらの方は能勢町が今後の施策展開についてということにとりまとめたものでござひます。実態調査の報告が3月末までに出てこないというなかで、本町としても29年度以降、どのような形で実態調査の結果に対してどのような施策を展開していくべきかということにとりまとめたものでござひます。資料1ページから9ページにつきましては先ほど報告をさせていただいた実態調査の調査概要を記載させていただいております。こちらにつきましては、昨年度の会議においてご報告をさせていただいたものと同じものになりますので説明の方は割愛させていただきますので、よろしくお願ひします。</p> <p>10ページでから11ページにかけて子ども・子育て会議での検討結果ということ、昨年度3回この会議を開催させていただきまして、特に子どもの生活に関する実態調査について検討をいただいたところでござひます。平成28年7月6日については実態調査前ですのでこのような趣旨でこのような趣旨で実態調査をさせていただくということでご意見をいただき、また、12月20日については単純集計が出てきておりましたので、単純集計結果についてご意見をいただきました。また、取りまとめが3月にずれ込むということと中間とりまとめということ、29年2月22日については中間とりまとめを踏まえた中で今後どのような形で施策を展開していくのか、この会議でご意見をいただいたところ、この内容について記載をさせていただいております。</p> <p>12ページ、13ページについてはこの子ども・子育て会議に平行して、庁内組織として調整会議を設置し、事務方で今後どのようなことが今後施策や事業で展開が図れていくのかということ、計3回会議を行い、検討を深めた経過を記載しております。</p> <p>14ページでは昨年度の第3回の子ども・子育て会議に若干説明をさせていただいていたかと思ひますが、3つの視点をもって取り組みの方針として学校のプラットフォーム化をめざすということをこの実態調査を踏まえた取り組みの方針としてとりまとめたものでござひます。どのようなところに取り組んでいくのかについては中段に書いております支援を取り組み方針としてまとめさせていただいたものでござひます。</p> <p>15ページをお願ひします。15ページでは本会議でご協議いただきましたこの子ども・子育て支援事業計画について一定変更をさせていただきました。なぜ、変更させていただいたのかということ、この実態調査を踏まえ、先ほど説明させていただきました量の見込みと提供体制、新たな事業をしていくということ追記をしていかな</p>

くてはならないことから、事業計画の変更をさせていただいた経過がございましたので、この分ここに15ページから18ページまでの間その変更した内容について記載をさせていただいたところです。

19ページをお願いしたいと思います。子どもの生活に関する実態調査結果を踏まえた取り組みの方針及び子ども・子育て支援事業計画の具体化ということで、具体的にどのようなことをしていくのかということをもとめたものでございますが、事業展開としては、子どもが創る明るい未来推進事業という3か年計画というところで、29年度から31年度を計画期間としてこの実態調査を踏まえた事業の展開を図っていきたいというところで記載をしております。具体的に29年度実態調査を踏まえて何をしているのかということでございますが、先ほど案件1で説明をさせていただいたところですが、20ページの下段から記載の方させていただいていております。本年4月から子どもの未来応援センターという相談窓口を設置し、家庭教育専門員も配置し、専門員による家庭教育支援事業を展開しているところです。資料7をお願いします。こちらに能勢町子ども未来応援センター設置要綱をつけており、要綱により位置付けをし、子どもの未来応援センターの運営を3つの機能をもってセンターの運営を行っているところです。3ページ以降に能勢町家庭教育支援事業実施要綱で、支援員が年長及び1年生から3年生までの児童の家庭に訪問して各家庭の課題を早期に発見するようなことをしていく取組を定めた実施要綱となっております。そして参考資料に先ほど説明をさせていただきましたが、家庭教育支援事業がスタートしますというところで、このチラシを訪問する前に学校、幼稚園、保育所を通じ、各家庭にチラシを入れさせていただいたうえで、事業の実施をさせていただきました。第1回目の家庭教育支援の情報誌がこちらにつけております「ほっこり」となります。このような形で今現在取り組んでおりまして、2学期の訪問に向けての準備をしていることであります。資料6の22ページでは、29年度で具体的に実施する事業で、子どもの居場所づくり事業でございます。まず、この夏休み期間中に、パイロット的に3日間食事の提供を行う取組をさせていただきました。併せて食事だけでなく、いろんなプログラムも併せて教育委員会と健康福祉部が共同して事業を展開させていただいたものでございます。こちらにつきましては、資料7の8ページにその各児童の家庭に配付させていただいたチラシをつけさせていただいています。いわゆる子ども食堂という形ではなく、夏休み元気広場に参加してみませんか、ということで、体験型のプログラムとお昼ご飯を食べるという事業展開を行いました。実施した結果ですが、各々の回で4、50名の参加がありました。参加していただいた児童から概ね好評であったように感じております。今回はパイロット的に事業を実施しましたので、この効果検証を今後つなげていき、次年度以降、どのような形で実施していくことがよいのか、また、今回参加された方がほんとに必要とされる方に届いているのかも含め分析もしていきたいと考えておるところでございます。また、この夏休み元気広場につきましては、先ほどの家庭教育支援員さんがボランティアで参加していただ

	<p>き、地域の方との交流も児童ができたと考えております。この資料の9ページですが、学習支援も29年度から生涯学習センターにおいて8月20日と21日でパイロット的に試験的に実施しました。</p> <p>資料6に戻りますが、子育て支援事業の利用者支援事業でございますが、これも先ほど案件1で説明がございました。親同士がつながる体験講座とモバイルサービスを活用した新しい新規事業を立ち上げています。親同士のつながり事業では配布参考資料のなかで、親と子のりらくすたいむ「tsu★do★i」とうことで月1回すでに開催しておりまして、約15組から20組の親子さんの参加があるということで聞いています。また、モバイルサービスについても6月1日からスタートしておりますので、今後より情報の提供に努めていくことで取り組んでおります。29年度実態調査を踏まえた事業の展開ということで、ただ今ご説明をさせていただきました事業が中心になりますが、いろいろと教育と福祉が連携して取り組みをすすめていただいております状況を説明させていただきます。説明は以上でございます。</p>
会長	<p>ただいま、資料6について説明をいただきました。その中で、特に窓口の一本化、子どもの居場所づくりとして食事の場所の提供をしたり、学習支援について説明をいただきましたが、ご質問がございましたらよろしく申し上げます。この間の給食等については4、50名の子どもが参加をし、楽しいひと時を過ごせた分けですね。それを今後必要な子どもたちにあたっているかどうかこれから煮詰めていかなければいけないことがこれからの問題ですね。資料6、7について、そして資料7に含まれています夏休み元気広場や夏休み学習会につきまして、あるいは最初に説明がありましたが、窓口一本化の能勢町子どもの未来応援センターの設置等につきましてご質問がありましたらお願いします。</p>
宇佐美委員	<p>資料7について。時間は午前10時からということは、親が連れていかないと子どもは参加できない。居場所づくりだと思うのですが、送迎は確かにむづかしいと思うのですが、それこそ、本当に必要な子どもたちの親というのは、午前10時とかに連れていけないのではないかと思います。先ほどの調査結果で、80名募集したけれども4、50名しかなかったというのは知れ渡ってないとかあると思いますが、そういったことはこれから検討していくとかいうことでしょうか。</p>
事務局(福祉課)	<p>この期間、7月25日、26日、28日に試験的にさせていただいた前提として、この期間、小学校においては、各学年、すべての学年で学習指導、プール指導がはかっています。すべての子どもが参加しようと思えば通常の登校するバスで学校に行ける状態にありました。ですので、親が送らなくても子どもが来ようと思えば、徒歩の子どもは徒歩で来ないといけないが、スクールバスを活用している子どもはそこは担保されています。加えて、学習指導なりプール指導は10時前に終わります。それだけで帰る子どもはその時でスクールバスがでますが、この3日間は、参加した子どもたちについても、その時間帯、本来はバスは走らないが、今回はパイロット的に実施するというのでバスを走らす方向で対応を行いました。ただ、学習会は足の確保はできていないので、町域</p>

	<p>は広いので親が連れてこなければいけないという子もあるかもしれないが、生涯学習センター、役場の横で、児童さんの一番多いところとして実施させていただきました。遠いから来れなかった子どもがいたらこれをどういう風に考えていくのか、子どもの居場所についても学校で引き続いてやっていくのがいいのか、また、地域でやっていくのがいいのかというような視点も踏まえて、30年以降に考えていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。</p>
会長	<p>どうもありがとうございました。今みてみますと、この元気広場のチラシ等については町報か何かにもありましたね。あったように思う。やっぱりすべての親御さんへはなかなか周知徹底できない面が多いと思います。小学校や中学校においてはすいぶん指導徹底、配付物の徹底をしてくださっていると思いますが、なかなか難があるように思います。今回は初めてのことでございますが、やっぱり続けていってこそ、いろんな結果が見えてきます。そのなかで改善すべきは改善しないと同じようなことの繰り返しはだめだと私は思っています。今回80名のところ50名しか来なかったのはなぜだろうかというところも？(クエッションマーク)がつくのではないのかと思います。それとも一つは小さい子どものことですので、君は来るべきだよと一言を何かの機会に子どもにもちょっと参加を押しやりたいし、親御さんにもどうですかとしてみてくださいと思っていますが、やっぱり休みのことですので、ついついお家にいたらいろんなことが起こるかと思っていますので、細かい指導も必要かとおもいますので、私たちにもそれぞれ地域でいろんな仕事を担っていますので、あんたとこの子どもどう？というような声かけもできるような施策ができれば、もっともっと有効なものになるのではないかなと、私は気がいたします。ただいまの資料6、7についてご質問ございませんか。</p>
事務局（生涯教育課）	<p>すみません。ちょっとよろしいですか。今の夏休み元気ひろばや夏休み学習会、今年度子どもの居場所づくり事業として展開していることなんですけれども、まず、教育委員会の方で、参加していただいたご家庭で、どれくらい経済的な状況はなかなかわからないけれども、就学援助を受けているというところで、一定みてみようかなということを見せていただいています。小学生だけだと12、3%就学援助を受けていると思うのですが、今回、夏休み元気広場や夏休み学習会に参加している家庭の約8%くらいが就学援助を受けている状況でした。ですので、事業の周知についても今後検討が必要だと思っています。それと今、子どもさんの送り迎えのことを委員からご指摘いただきましたが、生涯学習センターで行いますが申し込みは西地域のご家庭が多く、町域が広いので今後の施策展開にも検討の材料の一つかなと思っています。</p>
会長	<p>ありがとうございました。そのほか、ご質問ご意見ございませんでしょうか。</p>
菅野委員	<p>子どもがお世話になっている学校です。プラットフォーム化という形で学校ほか、教育委員会、福祉部局の方がみてくださり、そうなかで子どもをみまもっていく環境は大変ありがたく思っており理解していま</p>

	<p>す。ところが、学校代表で私が出席させていただいていますが、学校の職員にどれだけ思いがあるか、町の動きが伝わっているのか少し？がつくと思っています。</p> <p>学校単体としては、終業式終わってから実は明日まで休むことなく朝の学習会を開催しています。これはやっぱり、おうちで子どもの面倒もみれないという家庭もあるでしょうから、その分学校をオープンにして、そこで先生がいてあげるよというスタンスで、プールも同じです、プール開催も開催回数は少ないですが開催しています。こういう取組の事業、町の子ども子育てに対する思いというものについて、私の口べたのせいなのか、職員に十分に伝わっていないことがございます。半時間でこのような説明を受けたことから掻い摘んでしか職員へ伝わっていないのが事実です。もう少ししっかり学校の教職員と私を介して町の施策とのつながればいいな、そんなことを感じながら、学校と町部局とがもう少し連携をとらせていただければ嬉しいなと感じました。以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>どうもありがとうございました。萱野校長先生の思いだと思うんですが、本当に代表として聞いて帰っても、時間等がないために十分なる説明ができなく、7、80はできてあとの20は残っているとかね、そういうこともありますし、また、同じ校内では研修会等につきまちは十分にしていらっしゃると思いますが、やはり地域と結ぶとかあるいは行政と結ぶとかいろんな意味での、先生方も違った形でこういう取組をしていращやることを新鮮な思いで受け止めれるんじゃないかと思えます。先生の言葉のなかにはそんな意味のことも含まれていたのではないかと気がします。そのほか、ございませんでしょうか。</p>
<p>後藤委員</p>	<p>今、萱野校長にもありましたが、私も今回こういう施策展開をしていただき、非常にありがたいとおもっています。学校と先生とが一体となったら素晴らしいことができることはそうなんですが、これまとめるにあたっては十分時間をかけていただいていると思えますし、取り組みの方針のところはすごく興味をもって読ませていただきました。教育分野としては、幼稚園から小学校、中学校、高校と子どもたちをしっかりとみていこうということで教育委員会では小中高一貫教育といいながら取り組んできました。能勢の校園だよりも1つずつやっていることがひろがりつつなかりをすごく感じています。教育と福祉は別のところにあってなかなかつながりはなかったのがいろんなところで協力いただいていることがわかりますし、残念なのが、学校が一つとなったため歌垣の奥の方とか、東郷の奥の方とかなかなか地域が見れていないこと、どんなところで子どもたちが支援をいただいているのかなとわからないくらい新しい学校になって把握できなくなりました。つながりを作ればつくるほど実は会議が増えます。ずいぶん会議が増えています。ここに書いてある家庭支援事業実施要綱の子どもが創る明るい未来の推進会議とか、仕方がいないことはわかっていますが、だんだんわからなくなって、この関係がわかるもう少し図でもいいのですのでいただいて、私たちだけどんどん知識が増えるだけでなく、もっと現場の先生方に出ていただけるような会議をもてたらどうかなと思います。</p>

会長	<p>ということで、広く広げつなげていくためには、ほんとに当事者がいろいろかかわっていける、みんなで子ども子育てを町が望んでくださっているような町がいろいろ実施してくださっているようなそういうところにお力を貸したり、あるいは元気をもらったり、そういう意味ですね。そういう細かいつながりがきっちり見えてきたら、先生の参加もこの部分では生徒指導の先生は参加したらいいんだな、とか、そういうここは能勢町にあります各それぞれの団体から参加しておりますけれども、そういうところであればいいなというところにつながるのでしょうか。ということでまた今後ご検討をくださいましたらありがたいと今日のところはこれで終わらせていただきます。</p> <p>それでは、最後になりました。12 時前になりました。その他今日子ども子育て会議で何か提案しておきたいとか、最初のところの質問を忘れたとか、いろいろありましたらお聞かせいただけましたらうれしいかと思えます。</p>
事務局（福祉課）	<p>事務局から若干ご案内をさせていただきたいと思えます。（参考資料のチラシ2枚の紹介、周知、ご参加のお願い）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度子育て講演会（劇団カップ座 人形劇講演 in 能勢） ・子ども・若者を支える地域づくり講演会
会長	<p>はい、事務局の方からチラシ配布につきまして2点ご参加をお願いしたいということでございます。それぞれのお近くの方にお話しがあったとか、こういうことがあるよとかでお話しをしてくださることで地域とのふれあいも深まるのではないかと思います。ほか、ございませんでしょうか。</p>
事務局（福祉課）	<p>すみません。事務局から本会議の次回の予定だけ申し上げたいと思えます。本日第1回ですが、年間3回程度開催したいと思っていますので、次回については10月末から11月にかけて設定をしてみたいとおもいますので、通知についてはその期間をもってご案内をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>次回の予定でございます。10月末から11月ということでございますので、みなさんお忙しいことと存じますが、みなさん今日たくさんの資料を頂戴いたしました。まだまだ質問内容も出てこようかと思えますが、また次回に質問していただいたり、要望を述べていただいたり、それでよいのではないかと私は思っていますし、それこそがこの会議であるように思います。また、皆様方お忙しい中ですが、しばし時間がありますので資料等ご覧置きいただきましたらたいへんうれしく思います。そのほか、皆様方何かご意見ございませんでしょうか。</p>
市村委員	<p>ふりかえって今日報告いただいた内容は、今回だけでなく今後も続けていかなければいけない調査だと思えますし、一つ、数字のことでいいですと今回能勢町はとても高い回収率でした。たしか府では3割くらいの回収率だったと思えます。すごく低く単純に数字を比べて、能勢は41万円低いとか、それだけばかり頭でっかちにならなければいけないと思えましたので、能勢はこれが実情だけれども、府と比較したときにはそういう数字の面では信用できるかどうかもあることを含めて、注意してい</p>

	かないといけないと思いました。
会長	はい、ということでございます。能勢町の良さもいっぱいあります。そういうところを上手く伸ばし、そして、そういうところを支援するのも協議の役目でもあると思いますし、今日お越しいただいている代表の方々のお仕事の一つだと思います。今のご意見ありがとうございます。それでは、皆さん、あとごさいませんでしょうか。それでは、ないようでございますので、最後閉会のお言葉を兼ねまして今日もまとめも樺山先生にお願いしたいと思います。先生よろしくお願ひいたします。
副会長	みなさんからすばらしい意見等がでて、特に補足することはないかと思うのですけれども、少し感想とか解釈もふくめて最後終わらせていただきます。暑い中お疲れさまです。今先ほど委員の方からお話があったように、私が一番気になっていたことは、結果についてはすごく解釈の注意が必要だと思ひまして、特に回収率はやっぱり能勢町はとても高く、大阪府は低い恰好になっています。答えてない人がたとえば調査等しても一番低い層は、回答しなかった人とかは一番低い収入のところとかに数を入れてもう一度集計しなおすと実は全然違うパーセンテージがでてくることもありました。能勢町が90何パーセントでしょうか、すごい回答率があったことは社会的に弱い層の立場の人がきちんと答えているということで、そういうふうな関係性がある町はすばらしいなと、町の強みだと思ひています。そういう把握できる強みがあるということは、ぜひこれに生かしていただければいいんだろうなと感じました。校長先生方が実際来られていない学生さんたちで、実際弱い子たちがこられてなかったり、ぱっとこうイメージされているということで実際にアンケートをみたときに、これは実はあの子かなと想像できるぐらいにすごく近い顔の見える関係性のある町なのかなと思ひますと、具体的にどんなふうに情報を伝えて、どんな人たちにきてほしいのかということ、ほんとに層によってぜんぜん違うので、そういった対策をされたらいいんだろうなと思ひました。経済的な格差が子どもの学習とか健康等に影響してて、今回も学習効果にすごく影響してそうだとあつたんですけれども、お金がなくても健やかに育つ家庭も多いかと思ひます。そういったときに、いったい何が影響しているかということ、世界でもよく言われているのですが、ソーシャル的なサポートがあることによって、そういったお金がないこともぜんぜんできてしまうこともあり、能勢町は地域を良くしたいというような、子育て応援がすごく立派だなと去年1年会議に入らせていただいてすごく感じまして、そういう経済的な打撃をまったくカバーできるくらいたくさんの資源があるなかで、お互い顔の見える関係もあるんで、基幹だけでなく地域とつながりとか連携をもっともっと、かかわる人たちが意識をもって地域に目を向けるとか、会員だけでない場面でのつながりを草の根的に広げていけるようなそういった意識が高まってくると、こういった事業がいい方向にいくんだろうなと感じながら聞かせていただきました。長くなりましたけれども、今日のまとめとさせていただきます。また、引き続き、いい子育て

	てのできる能勢町となるように思っています。
司会	ありがとうございました。2時間になりましたけれども、皆様いろいろご意見いただきましてありがとうございます。樺山先生から総括的にいただきました意見も含めて、あるいは各委員様からいただきました意見を踏まえまして、また次回10月末から11月にかけて開催させていただくということでまたご相談をさせていただきたいと思いますので、この間の動きも含めてまた意見等ございましたら、是非よろしく願いいたします。それでは本日はたいへんありがとうございました。これで終わりたいと思います。